

排水 : drain



お願い!

もう許して!!

ダメで~~~~す(笑)

はい、オンユアマーク。
(位置オンズ)





ウ...

ウ...

カ...





ひびく!



お尻をケツト上げてください。

センパイ。

ハッ

ハッ

ハッ

(用意)

はい、セツトお〜(笑)

ハッ







汗をかきすぎ。練習してない証拠。
負け犬女は、負け犬女になる理由がある。




短距離は、スタートダッシュが命♡
フクロウチングスタートぐらいキレイな
フォームでやって下さいよ、センパイ。





第一章

1秒間に2秒、動ける



ワハベ私立は、小中高大一貫である。
特に中学から始まる陸上部は、名門。

全国優勝は当たり前。
日本代表選手も多い。

そんなウハベ私大には、特に飛び抜けた選手が一人いた。

(かとう)

(のぞみ)

加藤 希 (20)



フォームはバラバラ。練習は来ない。
でも、大会に出れば日本新は当たり前。
400m走の世界記録も保持している。

1位

2位

3位

論外

論外

結果が全ての世界で、
希は特別に優遇されていた。

彼女には、

時間操作能力

があった。

時間は常に一定である。

故に、万人は1秒間に1秒間しか与えられない。

ただ、彼女だけは1秒間に最大で2秒。

人よりも多く時間を与えられる。

与えられた時間は、加藤希だけが認識できる。

これが、加藤希の能力。

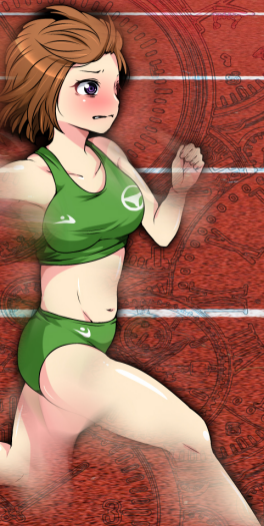
簡単に言えば、私だけ2倍速で動けるってこと。
もちろん、誰にもバレずに♡



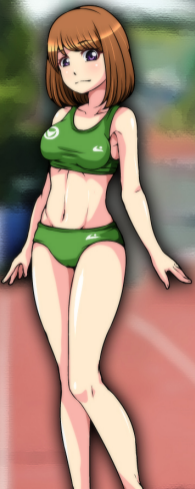
彼女は、この能力で陸上競技界を席卷した。

普通、12〜13秒が100m女子の記録だが
彼女だけは24〜26秒で走れば勝てる。

練習をしなくても、フォームがぐちゃぐちゃでも勝てる。
遊び歩いていても、陸上に情熱を注がなくても…



そんな希が付属高校の陸上部指導に来たのは、
学校の単位がヤバかっただけの理由である。



遊び歩いて単位を落とすすぎた。
コーチが「付属高の指導に行けば、後は何とかしてやる」
と言うので、仕方なく来た。





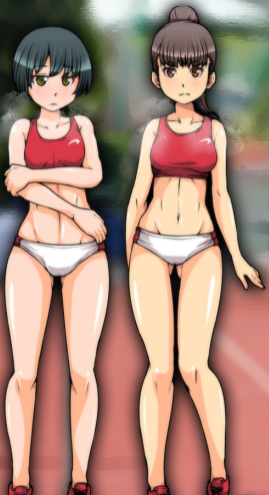
そして横柄に後輩を指導した。

馬鹿にした。

鼻で笑った。

無駄に体力を摩耗させた。

結果、高校生二人から挑まれた。
日く、「私達、どちらかが勝つたら
帰って欲しい」との事。



高校生から、世界記録保持者が挑まれたのも
結果が全ての世界ならでは。

(あんなに息が上がっちゃって。
私に勝てるわけ無いじゃん。
一度思い知らせてやるか)



(いざとなれば、『2倍速』を使えば良いだけだし)

そして、
負けた。





負け続けた。





負け続けた。



なぜか、何度やっても



だが、単位の面から



希には帰宅が許されなかった。



そして、
こうなった。



クワッ